

# 常任委員会の審査から

## 営業戦略農林水産委員会

## 総務企画委員会

**森林湖沼環境税を延長する場合の目標はさらなる森林集約化、霞ヶ浦水質浄化などを目標とする**

**問** 課税期間延長が検討されている森林湖沼環境税について、これまでの成果と延長の理由、延長の場合の目標は。  
**答** 森林経営の集約化・再造林の拡大、霞ヶ浦などの水質浄化を進めてきたが、道半ばのため、延長を検討中。延長の場合、3万円を目標にさらに森林の集約化を進め、霞ヶ浦は、現在の水質(COD7・3mg/l)を悪化させないよう施策を検討していく。  
**問** キャンプ場とアスレチックの整備を条件に、砂沼サンビーチ跡地の利活用に向けた事業者の公募が開始された。地元の声を聞き、協調していくことが重要だが、所見は。  
**答** 選定される事業者と地元住民との対話や調整には県や市も加わり、何が地域にとってベストか考えていきたい。(ほかに、起業型地域おこし協力隊、マイナンバーカードの普及推進策なども質問)



豊かな森林と美しい湖沼のために(高度処理型浄化槽の設置、再造林の様子)

**森林湖沼環境税の取り組みの重要性を県民にどう伝えるか 広報や森林環境教育などによりしっかりと伝えていく**

**問** 森林湖沼環境税を活用した森林環境保全の取り組みの重要性を県民に理解してもらうために、どう取り組むのか。  
**答** 県広報紙や啓発動画などを通して森林湖沼環境税の成果や森林の公益的機能の重要性を伝えていくとともに、小学生を対象とした森林環境教育なども進めていく。  
**問** 魅力度ランキング最下位の結果について、一喜一憂する必要はないと考えるが、どう受け止め、今後の魅力発信に取り組みしていくのか。  
**答** ランキング結果を真摯に受け止めつつ、今後も歩みを止めることなく、「いばキラ



茨城県の魅力を動画などで発信する茨城県公認Vtuber茨ひより

## 土木企業立地推進委員会

## 防災環境産業委員会

**飲食店への第三者認証制度<sup>※2</sup>の周知策はメールでの周知およびステッカーなどの配布を検討する**

**問** 第三者認証制度が周知されていない。認証店の認識を持っていない店舗もあり、ステッカーなどで明示してはどうかと考えるが、周知策は。  
**答** 認証店のうち、公表を希望する店舗はホームページで公表している。今後は、アマビエちゃん登録店舗へメールで周知を図るとともに、ステッカーなどの配布も含めて検討していきたい。  
**問** 新産業廃棄物最終処分場に至る新設道路は、林道も使用すると思うが、近くには桜川や大久保の風穴がある。これら地域資源が生かされる整備が必要と考えるが、所見は。  
**答** 新設道路の整備に当たっては、地域振興に資するよう、桜川や大久保の風穴などの地域資源に配慮しながら進めていきたい。(ほかに、森林湖沼環境税、水道ビジョン、WEB版マイタイムラインなども質問)



第三者認証制度の周知を

**株式会社エンビジョンAESCジャパン<sup>※3</sup>誘致の経済波及効果は10年間で数千億円規模の経済波及効果を見込む試算結果もある**

**問** 国内最大級の車載用バッテリー工場建設を予定する、株式会社エンビジョンAESCジャパンの誘致が、地元への雇用や税収に与える効果は大きい。誘致の決め手になった要因や経済波及効果は。  
**答** 他県と比べた本県の立地優位性のアピールやきめ細かな受け入れ態勢の充実に加え、県と地元茨城町による手厚い支援が評価された。10年間で数千億円規模の経済波及効果を見込む試算結果もある。  
**問** 通学路交通安全プログラムに位置付けられた県管理道路の要対策箇所の整備状況は。昨年度末までに、対策が



株式会社エンビジョンAESCジャパンの誘致が決定した茨城中央工業団地(2期地区)

## 文教警察委員会

## 保健福祉医療委員会

**看護職員の地域偏在対策は養成に加え、再就業や定着促進などにも取り組む**

**問** 本県の看護職員数は全国低位で、地域偏在も生じている。解消に向けた取り組みは。  
**答** 看護師等修学資金の貸与を受けた今年卒業者の95%程度が、看護職員不足地域<sup>※5</sup>で就業している。地域偏在解消に有効であり補正予算案を提出した。こうした看護職員の養成のほか、再就業や定着促進、資質向上にも取り組む。  
**問** 今回の補正予算案には病床確保や臨時医療施設の費用が含まれる。病床確保に当たり、既存の受入病院の負荷軽減も必要だが、取り組みは。  
**答** 臨時の医療施設などで軽症者を対象に実施してきた抗



看護学校での演習風景(土浦協同病院附属看護専門学校提供)

**コロナ禍における子どものメンタルケアへの対応は例年以上に子どもたちの心の変化に対応するよう努めている**

**問** コロナ禍における子どもたちのメンタルケアにおける子どもたちのメンタルケアに県はどのような取り組みができたのか。  
**答** 例年以上に、子どもたちの心の変化に対応するよう努めている。休業中もリモートなどでの面談や、電話連絡や家庭訪問を実施した。また、個別指導、カウンセラーの活用も行き、状況がいつもと違うことを踏まえ、対応してきた。  
**問** 市民の安全安心を守る身近な存在である交番や駐在所の再編整備における考え方は。  
**答** 初動体制・夜間体制やパトロール活動強化のため、管轄区域の昼夜の人口や治安情勢などを勘案し、交番・駐在



コロナ禍における子どものメンタルケアのさらなる充実を

ことば ※4【Park-PFI】…都市公園における民間資金を活用した新たな整備・管理手法で、利用者の利便向上に資する収益施設の設置と園路等の公園施設の改修等を一体的に行う者を公募で選定する制度。  
 ※5【看護職員不足地域】…10万人当たりの就業看護職員数について、県平均を下回っている二次医療圏のこと。現在、常陸太田・ひたちなか、鹿行、取手・竜ヶ崎、筑西・下妻、古河、坂東の5医療圏が該当。  
 ※6【抗体カクテル療法】…2種類の抗体を混ぜ合わせた薬剤を使用する治療法であり、新型コロナウイルス感染症の軽症・中等症患者向けの治療で、重症化を抑制する効果が期待できるもの。